

令和6年度 児童発達支援事業所 自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所四日市市立あけぼの学園		
○保護者評価実施期間	令和6年10月1日		～ 令和6年11月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	148名	(回答者数) 147名
○従業者評価実施期間	令和6年10月9日		～ 令和6年11月13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14名	(回答者数) 14名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月3日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	支援内容の専門性が高いこと	各職種ごとの専門的な研修に参加したり、あけぼの学園で開催される研修への参加、各職種ごとに学び合う機会や職種を超えて意見交換する機会を持つなど、常にスキルアップを図るように努めている。 お子さんひとりひとりの発達段階や発達特性を把握した上で、支援内容を吟味し取り組んでいる。	経験豊富なベテラン職員が、経験の浅い職員を育成しつつ、互いに学び合うようにして、事業所全体としての支援の質を高めることを継続していく。
2	各職種の専門性を活かした支援計画を作成して支援にあたっていること	各職種の専門性を活かし、かつ、多職種で協議した支援計画の作成と振り返りを行い、支援内容の充実を図るようにしている。	引き続き、お子さんや保護者のニーズを丁寧にくみ取りながら支援計画へ反映していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	情報発信について	個別支援のため、行事予定等のおよりの発行はしていないが、ホームページには事業の概要を掲載し、毎年評価表のまとめや自己評価等について掲載している。ホームページがあることの周知が足りない。	ホームページをさらに多くの方に見ていただけるよう、周知に努める。
2	安全管理について	利用児が多く、かつ個別支援で短時間の利用の為、利用の方全体での避難訓練等を設定することが難しい。	引き続き、職員は定期的な避難訓練等を実施していく。 利用の方には可能な限り避難訓練等への参加を促すことや、避難経路等の周知に努める。